

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 蘇我第4教室教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<p>契約初期から時間をかけて面談を行い、不安の解消と個別理解を深めていること 教室の様子や支援内容を保護者と共有しながら、相互理解を大切にしていること</p>	<p>・30分から60分間の保護者との面談を定期的に行っています。特に契約したばかりの時期は利用に関する不安も多く、わからない中でご自身の大切なお子様を預けていく時期です。 教室の様子を理解してもらおうと共に、私たちが何ができるのか、保護者様が何を求めているのかを丁寧に話し合う中で、安心できる関係を築けるように、会話の時間を増やすようにしています。</p>	<p>まもなく教室を開所して半年が経ちます。4月になると更に利用する子どもたちが増加し、その後より教室運営も子どもたちの様子も安定していくことが予想されます。保護者さまが複数参加できる外出プログラムや近隣教室を交えた体育祭など、より職員、子ども、保護者のかかわりが増えるプログラムを始めます。</p>
<p>日々の子どもの小さな変化や様子を丁寧に共有し、保護者が教室での姿を具体的にイメージできるようにしていること</p>	<p>・一日の中で起きたこと、ちょっとした気づいた子どもの変化などを、送迎時のフィードバックやLINEでの連絡で必ずお伝えするようにしています。</p>	<p>保護者へ必要な事務連絡をする際にも、児童の様子をそれぞれの職員の観点でお伝えし、教室状況を保護者がイメージできるようにします。</p>
<p>学校や関係機関と密に連携し、課題の早期発見と予防的支援を行うことで、子どもと保護者の安心を地域全体で支えていること</p>	<p>・学校や相談支援事業所とは定期的に連絡を取り、子どもたちが困らないような仕組みづくり、課題解決に向けた声掛けを積極的に行っています。ケース会議を通じて、他の事業所を巻き込みながら、地域として子どもたちを守っていける仕組みを構築しています。</p>	<p>相談支援事業所にアセスメント状況や保護者状況を定期的に共有し課題が顕在化する前に、「予防」として対処することで、保護者が抱える負担を減らせるようにします。</p>

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<p>職員の支援が個々の経験に頼りがちで、専門的な療育知識や技術の学習機会が十分に体系化されていないこと。</p>	<p>・専門的な療育手法を学ぶ時間が十分に確保できておらず、経験の長い職員が新しい職員に児童の子どもへの対応方法を共有し、徐々に対応を学んでいく流れがある。 経験をもとにした対応ではあるが体系的ではないために、児童が二次障害を持つリスクを極力減らすために、専門的に学ぶ時間を確保したい。</p>	<p>強度行動障害の研修受講や自閉症スペクトラムに関する学習など児童の二次障害が起きないための学びを朝礼時や週次ミーティングを通じて、学べる機会を増やします。</p>
<p>児童数の増加に伴い、教室環境の整備が暫定的であり、安心して過ごせる空間づくりがまだ十分に整っていないこと。</p>	<p>・強度行動障害児を中心に他害行為、自傷行為を突発的に起こす可能性があります。これに対して、児童が一人増える度に教室の環境整備を行っていますが、今後も児童が増える見込みであり、暫定的な教室環境としています。 机の配置や死角となる場所の減らし方、一方で児童が一人になれる静かな空間の作り方、両方のバランスを取った環境整備が今後も拠点の課題となります。</p>	<p>パーテーションや装飾などを行い、相談室を子どもがリラックスできる場所としてクールダウンができる落ち着いた空間に調整します。聴覚や視覚からの刺激に敏感な子どもたちが刺激を遮断できる環境を作ります。</p>
<p>空調設備が十分でなく、季節によって室温や湿度の管理が難しいため、児童が快適に過ごせる環境が整いきっていないこと。</p>	<p>・事業所のエアコンは業務用1台で行っており、玄関付近が夏は暑く、冬は寒い状況が把握できています。障がいの重い児童の受入も行っている中で、室温と湿度は1年間を通じて、ある程度一定に保てるようにすることで、児童の安定にもつなげること、また感染症予防を行う必要があります。</p>	<p>加湿器や暖房器具、空調をコントロールするためのサーキュレーターを購入し、子どもたちが過ごしやすい環境を目指します。</p>